

学 科	鍼灸マッサージ科		学 年	2年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有
授業科目名	臨床経穴学				担当教員	天野 陽介		
授業の方法	講義、実習				単位数	2単位	時間数	60時間
学修内容	東洋医学の基本概念の一つである経絡経穴について、特に重要視され、よく用いられている要穴について学ぶとともに、奇穴、経穴の運用法、経絡系統やその病証などを学ぶ。							
授業の到達目標	Ⅱ. 医学的知識 4. 東洋医学の自然哲学・健康観・病理観							
授業計画	前 期				後 期			
	回	テーマ			回	テーマ		
	1	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略			1	第2章 経脈・経穴 IV. 奇穴《含:新穴》32穴 1. 頭頸部穴 2. 胸腹部穴		
	2	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(2)五俞穴・五行穴(手三陰)			2	第2章 経脈・経穴 IV. 奇穴《含:新穴》32穴 3. 背部穴 4. 上肢部穴		
	3	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (2)五俞穴・五行穴(手三陽)			3	第2章 経脈・経穴 IV. 奇穴《含:新穴》32穴 5. 下肢部穴 6. よく知られている経穴の組合せ		
	4	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (2)五俞穴・五行穴(足三陰)			4	第3章 経絡・経穴の現代的研究		
	5	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (2)五俞穴・五行穴(足三陽)			5	選穴法・配穴法 (1)概要・選穴		
	6	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (2)五俞穴・五行穴			6	選穴法・配穴法 (2)配穴		
	7	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (2)五俞穴・五行穴			7	《東概》第2章 生理と病理 第3節 経絡 Ⅰ. 経絡の概念 Ⅱ. 経絡の機能 Ⅲ. 経絡の構成		
	8	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(1)五要穴 ①原穴②郄穴③絡穴(手三陰三陽)			8	《東概》第2章 生理と病理 第3節 経絡 Ⅳ. 経絡の病理①		
	9	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(1)五要穴 ①原穴②郄穴③絡穴(足三陰三陽)			9	《東概》第2章 生理と病理 第3節 経絡 Ⅳ. 経絡の病理②		
	10	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(1)五要穴 ④募穴			10	第2章 経脈・経穴 Ⅲ. 奇経八脈 (付・奇経の病証)①		
	11	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(1)五要穴 ⑤俞穴(背部俞穴)			11	第2章 経脈・経穴 Ⅲ. 奇経八脈 (付・奇経の病証)②		
	12	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (3)四総穴(4)八会穴			12	経穴と筋・神経・血管①		
	13	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略(5)八脈交会穴(6)交会穴 (7)下合穴			13	経穴と筋・神経・血管②		
	14	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (1)五要穴、(3)四総穴～(7)下合穴			14	経穴と筋・神経・血管③		
15	第1章 経絡・経穴の基礎 4. 経穴の概要 5)要穴の概略 (1)五要穴～(7)下合穴			15	経穴と筋・神経・血管①②③			
評価基準	評価:90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)							
評価方法	小テスト15%、中間試験40%、期末試験45%の割合で評価				実務経験	北里大学東洋医学総合研究所に上級研究員として勤務、現在、客員研究員。 東洋医学関連学会の委員としての活動に従事、および研究発表。		
履修上の注意	单元ごとに小テストを行います。それらで行う学習が、中間・期末試験にも関連しますので、しっかりと学習をしてください。				授業時間外の学習	单元ごとの小テストは復習を行ってください。長期休暇時はそれまでに履修した内容を復習して下さい。		
使用教材	・日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会(編)、教科書執筆小委員会(著)『新版 経絡経穴概論』医道の日本社 ・東洋療法学校協会(編):『新版 東洋医学概論』、医道の日本社				連絡先	担当教員出校日(金曜日)に教務課まで連絡下さい。		